

Mémoire 2024

第170回 天皇賞(秋) (GI)



本来の鋭さを取り戻した ドウデュース

圧巻の末脚で驚異の上がりマークし、現役最強馬が復活を遂げた。人気は三つ巴。1番人気の牝馬三冠馬リバティアイランドはドバイシーマクラシック3着以降、怪我で休養しており、これが復帰戦だった。2番人気のドウデュースはドバイターフ5着、宝塚記念6着と連敗中。3番人気のレーベンスティールはエプソムC、オールカマーと重賞連勝中で、その勢いが評価されていた。

レースは毎日王冠でも2着に逃げ粘っているホウオウビスケッツの先導で進んだ。1,000m通過は59秒9と落ち着いた流れ。リバティアイランドは好位、レーベンスティールは後方。そしてドウデュースはさらに後ろ、後方2番手にまで下がっての追走となっていた。

隊列がほとんど変わらないまま馬群は3、4コーナーから直線へ。後続を突き放したホウオウビスケッツがベラジオオペラ、リバティアイランドらの追撃を退ける。代わって伸びてきたのはタスティエーラ、ジャスティンパレス。しかしそれらすべてが止まって見えるようなスピードで大外から迫ってきたのが、ドウデュースだった。

武豊騎手が「ペースは遅かったですが、ある程度腹を括ってラスト

にかけるレースをしました」と明かしたように、まさに直線に賭けた大外一気ですべての馬を交わし去ってゴールしたドウデュースが記録した上がり3ハロン(推定)の32秒5は、GI勝ち馬としては史上最速のタイムだった。

友道康夫調教師が「ドバイと宝塚記念は馬っ気やイレ込みがありましたが、今回は装鞍所からパドックまですごく落ち着いていました」と振り返ったように、ようやく本来の強さを発揮したドウデュースは、これでグレード制導入後では7頭目となる4年連続でのGI制覇を達成。現役最強馬は、やっぱり強かった。誰もがそう言いたくなるような、鮮やかで力強い復活勝利となった。

第170回天皇賞(秋) (GI)

10/27 東京競馬場 2,000m(芝・左) 曇・良 15頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ドウデュース	牡5	58	武 豊	友道 康夫	1:57.3	②	⑭⑭⑭⑭
2	タスティエーラ	牡4	58	松山 弘平	堀 宣行	1 1/4	⑨	③③⑤
3	ホウオウビスケッツ	牡4	58	岩田 望来	奥村 武	1/2	⑧	①①①①
4	ジャスティンパレス	牡5	58	坂井 瑠星	杉山 晴紀	クビ	⑥	⑫⑪⑪⑪
5	マテンロウスカイ	騾5	58	横山 典弘	松永 幹夫	クビ	⑫	⑤⑥⑤⑤

ドウデュース
栄光の蹄跡

7

ハーツクライ
ドウデュース 115 M
ダストアンドダイヤモンド(Vindication)
2019.5.7 生 安平・ノーザンファーム



牡5
鹿

58

武

58

豊

58

(株)キーファーズ

友道 康夫(栗東)

2024.6.23

宝塚記念GI

13ト1人

6(111)

58*

武 豊

芝2200重

2:12.9

京都

2024.3.30

ドバイターフG1

16ト

5(115)

57*

武 豊

芝1800良

1:46.2

中山

2023.12.24

有馬記念GI

16ト2人

1(124)

58*

武 豊

芝2500良

2:30.9